

令和8年3月29日

松阪市議会議長 濱口高志様

松阪市議会議員

田中正浩

議員研修参加報告書

1. 研修概要

研修名: 議員スキルアップ研修(質問力向上)

主催: 地方議員研究会

日時: 令和8年3月26日(木)~27日(金)

会場: 東京都新宿区西新宿 リファレンス西新宿大京ビル

講師: 地方議員研究会 黒瀬雄大氏

参加者: 松阪市議会議員 田中正浩

2. 研修の目的

議会における質問力の向上は、行政監視機能の強化および政策提言の質を高める上で極めて重要である。本研修は、効果的な質問を行うためのデータ収集手法、質問構成の技術、ならびに本会議・委員会における発言の実効性を高める手法を習得することを目的として参加した。

3. 研修内容の概要

本研修は、以下の三点を中心に実施された。

- ① 質問作成のためのデータ収集方法

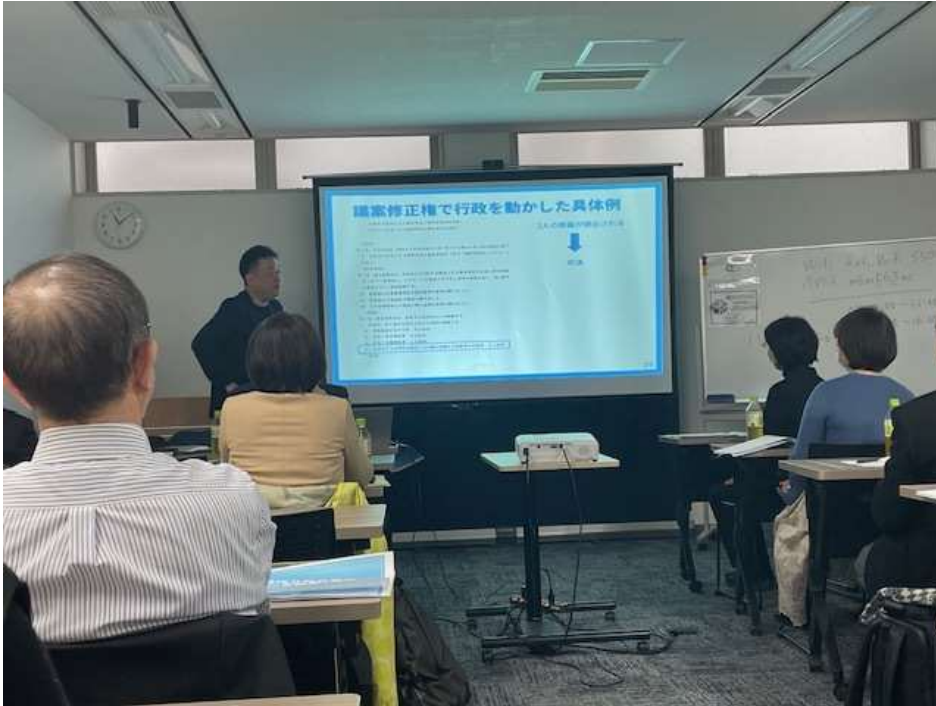
- ・質問をする議会のタイミングを考える
- ・質問に必要なデータを特定し、データを用意する
- ・決算審査意見書や予算編成の留意事項などを参考にする
 - ・他自治体事例の比較分析をする
 - ・数値データ(コスト・効果・CO₂等)の整理をする

② 質問の組み立て方法

- ・自治体の3類型に応じた質問の方向性を考える
- ・提案には必要性和許容性が必要である
- ・議員からの提案はURO(マフィアオファー)が理想
- ・執行部の条例提案は立法事実を確認する
- ・説明責任を行政側に押し付ける
- ・答弁を次のアクションがわかるまで砕け
- ・質問の戦略目標を明確にして、長期的な視野で質問を作る。

③ 本会議や委員会での質問の効果上げる方法

- ・答弁調整で質問の範囲を広げ、ゼロ回答は許さない
- ・自治体職員をやる気別に分類するし、自発的、能動的に環境変化して対応して改善を提案・実施できる職員を探す
- ・答弁を想定した質問の事前設計をする
- ・逃げ答弁への対応方法は Yes/No で答えざるを得ない設計が必要である
- ・再質問による論点固定を図る。何が障害なのかを教えてもらう
- ・行政が動いたときは、議場で職員を褒める



4. 主な学び・気づき

- ・有効な質問は「情報量」で決まるのではなく、「論点の絞り込み」と「構造」で決まる
- ・行政側の答弁は一般的・抽象的になりやすく、それを防ぐためには Yes/No で答えざる得ない質問の設計が必要である
- ・他自治体との比較や数値データの提示は、答弁を具体化させる有効な手段である
- ・質問は単発ではなく、再質問まで含めて一つの戦略として考える必要がある

5. 松阪市への活用

本研修で得た知見は、本市の議会活動において以下の点で活用可能である。

- ・体育館空調整備事業などの大型事業において、LCC(ライフサイクルコスト)や災害時運用などの具体データを基にした質問を行う
- ・プロポーザル契約に関して、評価基準や選定過程の妥当性を Yes/No 形式で明確に問う
- ・避難所機能の強化(空調・電源・水)について、他自治体比較を用いた政策提言を行う
- ・再質問を前提とした構造的な質問設計により、行政答弁の具体化を図る

6. 今後の取り組み

- ・本研修内容を踏まえ、一般質問および委員会質問の質の向上を図る
- ・担当部署へのヒアリングにおいても、論点整理とデータ重視の手法を活用する
- ・市民への説明においても、数値と根拠を明確にした情報発信を行う
- ・議案修正権の積極的な利用を行う

7. 所感

本研修は、議員としての基本である「質問力」を体系的に学ぶ機会となった。特に、データに基づいた質問設計と、答弁を引き出す技術の重要性を再認識した。今後は、本研修で得た知見を実際の議会活動に反映させ、市政の透明性向上と政策の質の向上に資するよう取り組んでいく。また議案修正権で行政を動かした具体例などの紹介もあり、積極的に用いることの必要性を教えて頂いたので活用したい。